

精鎮第八一八號ノ四

大正十三年五月八日

横須賀鎮守府司令長官 堀内三郎

海軍大臣 村上格一殿

内火式通船一時限貸與ノ件

横須賀海軍工廠所屬内火式通船一隻救難船栗橋臨時海軍防備隊ニ臨時附

屬申時限借用方同船指揮官上申ニ對シ本日認許致候

右報告ス

第一課

第四部

總務部

第三課

第一課

艦政本報

艦本報 13.5.20 第三課

13.5.17 本報 交接

海軍

06850

艦政本部

事務局

横須第

大正十三年五月二十八日

横須賀鎮守府司令長官 堀内三郎

海軍大臣 村上格一殿

傳馬船一時限貸借使用ノ件

左記の通雑役船ヲ一時限リ貸借使用方ヲ認許致候

右報告ス

第四部 記

所屬 船種 第三種 使用 應理 由

横須賀海軍港務部臨時所屬

公稱第一四五七號

横須賀海兵團新兵練習用トシテ

公稱第一四五四號

艦本換 13.6.5- 第三

本艦 13.6.2 受換

海軍

0686

軍務局

艦政本部

横須賀鎮守府
第九〇〇〇

大正十三年 五月 廿 日

横須賀鎮守府司令長官 堀内 三郎
海軍大臣 村上 格 一殿

第一課

汽艇一時限貸借使用ノ件

左記ノ通雜役船ヲ一時限貸借使用方認許致候

右報告ス

第四課

所

總務部

船

種

使

築用

應

理

由

横須賀海軍港務部附屬特務艦尻矢内火艇陸揚修理中ニ付
公稱第三七〇號

藤 13.6.2 櫻

艦本總 13.6.5 第三課

海軍

本艦 13.6.2 受換

0687 榮新

天州

艦政本部

横須賀のり

大正十三年 五月二十八日

横須賀鎮守府司令長官 堀内三三郎

海軍大臣 村上格一殿

第一課 雑役船一時限貸借使用ノ件

左記ノ通雑役船ヲ一時限貸借使用認許致候

右報告ス

所屬船種	使用	理由
横須賀海軍港務部保管	横須賀海軍工廠職工送迎及雑用トシテ	
第一 震天	第三課	
總務部	第一課	終

艦本施 13.6.5 第三

海 四 6

本艦 13.6.2 受検

海軍 管 局 受

0688

起案郵紙

大正十三年五月二十日起案

起案者 捺印

五月廿

發付 捺印

發付後起 案者捺印

提呈

艦政本部長

總務部長

副官

大臣

次官

參事官

第一課長

第二課長

第三課長

經理局長

第二課長

高木

軍務局長

第一課長

局員

軍需局長

第二課長

西

大正十三年五月三十日

大臣

横鎮司令官

重由 船賃 順 一 申

官房第三之五號

軍令	船路	艦政	人事	軍務	機務	醫務	經理	法務	技務	造兵	教育	艦建	軍令

經理局 13.5.22

本艦 13.5.22

3.5.28

0689

第一編
私運 7
浦賀船渠株式會社
重油私運 爲三百噸積重油
有償

大正十三年五月
浦賀船渠株式會社
重油私運 爲三百噸積重油
有償

二二五

大正十三年五月三十日

浦賀船渠株式會社

大正十三年五月卅日 發布濟

浦賀船渠株式會社
重油私運 爲三百噸積重油
有償

重油私運 爲三百噸積重油
有償

浦賀船渠株式會社
重油私運 爲三百噸積重油
有償

(報文社)

0690

海軍

模造半葉十三行紙

加賀鎮守府司令部長官訓令相成の条詳細
同封指字の交り度
石田

(宮井納)

0691

軍務局

本館

2/52

浦驅十三第一九四號

監督官 樋田

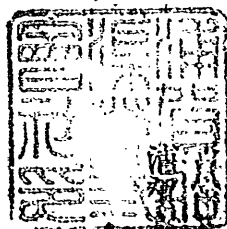


大正十三年五月五日

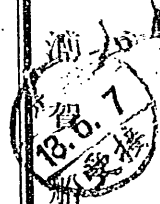
海軍大臣村上格一殿

第四部

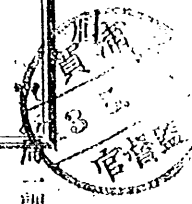
重油船拜借御願ノ件



今岡純一郎



浦驅由第... 渠株式會



謹啓豫テ建造新御下命相蒙リ居候第八號驅逐艦ノ試運轉期日相近ツキ之レ
 且ツ民間ニ於テ此際入手困難ニ有之甚ダ困却罷在候ニ付其設備無之
 御座候得共來ル五月三十日ヨリ六月二十八日迄ノ間ニ於テ御差支ナキ期
 間約十二日間横須賀海軍々需部三百噸積重油船壹隻何卒御貸與被成下度此
 段奉懇願候

敬具

横須賀軍需部内 諸君 (平天重徳同)

13.5

浦No. 86

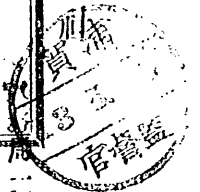
0692

紙箋附

Handwritten notes and signatures at the bottom of the document.

第...号

式會



目壹番地
社長



相 近 ツ キ 之 レ

其 設 備 無 之

恐 縮 ヲ 至 リ

御 差 支 ナ キ 期

一 與 被 成 下 度 此

Call No. 8...

0692

九 課

紙 箋 附

大 正 七 年 五 月 廿 一 日

海 軍 省 軍 務 局

行政本部
本件...例...準...債...方...出...
...

0693

主
軍務局

濟

横鎮第
三九號

大正十三年六月卅日

第一課

濟

横須賀鎮守府司令長官

堀内三郎

海軍大臣 財部 彪殿

第四部

雜役船一時限貸借使用ノ件

左記雜役船ヲ一時限貸借使用ノ件認許致候

右報告ス

總務部記

第三課
第一課

所屬船種

使用應

理

由

横須賀海軍港務部保管
公稱第五三四號傳馬船

横須賀海軍工廠
三笠陸上交通用トシテ

終

海軍

0694

主
軍務局
濟

横鎮第一四の號

大正十三年六月卅日

第一課

海軍大臣 財部 彪殿
横須賀鎮守府司令長官 堀内三郎

雜役船一時限リ貸借使用ノ件

左記第四部 通雜役船ヲ一時限貸借使用認許致候

右報告ス

總務部 記 第三課 第一課

所屬船種 使用應理由

横須賀海軍港務部部所屬

横須賀海軍建築部

掘削工事用トシテ

公稱第九八八號泥受船
公稱第七六九號同

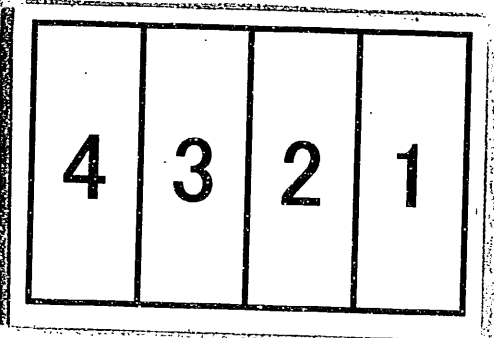
終

海軍

0695

五七二
雜役船

分割撮影ターゲット

<p>分割した 部分の 撮影順序</p>	
<p>分割撮影 した理由</p>	<p>A 3 版 以 上 の た め</p>
<p>上記のとおり分割撮影した事を証明する。</p>	

お返

世に公と名をの儀に交

ありはは吉祥

を念ふ

陳と名をの儀に交

よむける物等儀に於の

為者多しをたし儀

へせる儀物等儀に交

司と名をの儀に交

爰の祥多し儀に交

よむける物等儀に於の

儀に交りて多し儀に交

友房多し儀に交りて

0699 0698 0697 0696

よきものありては
諸君も下りては
友房も下りては
よきものありては
かたはるも下りては
借取に由りては
かたはるも下りては
のりては下りては
欠乏の折柄は
物事の運びは
おぼしきものありては
用ひては下りては
物事の運びは
田舎の運びは

物事の運搬に於て
郵便より早く
用件に速く
物事の輸送に
田中君が速く
右の如く速く
まゝの如く
本月に於て
本港より
船に五回
出ると
如斯く

一ノ一

軍艦の由航港務

部へ返付申上

出之、業及者

法務省へ送付

如所送付

取付

大正十三年七月五日

復書局長及事務長

海軍省事務課長

艦政本部

横須賀第一四〇三號

大正十三年八月五日

横須賀鎮守府司令長官 堀内三

海軍大臣 財部 彪殿

左記ノ第一課傳馬船臨時貸借使用ノ件
第一課傳馬船臨時貸借使用ノ件
右報告ス

第四部

所屬 船

種 使用 應

理 由

横須賀海軍港務部所屬
公稱第一六八〇號傳馬船
横須賀海軍工廠
職工送迎用其ノ他雜役トシ

總務部

第三課
第一課

艦本規 3.8.18 第三課

本艦 13.8.14 接



ト
從
申

終

紙 罫 案 起

大正十三年 七月十七日起案

起案者 徐印

八月十八日發付

發付掛 徐印

發付後起 案者徐印

13.7.23
13.7.23
13.7.23

(提案) 艦政本部長

第四部長

大臣

副官

總務部長

第三課長

次官

參事官

第一課長

第二課長

第一課長

軍務局長

第一課長

局員

經理局長

第二課長

第三課長

高木

指令案

大正十三年八月十八日

大臣

七月十四日附横領入第一三四四號第一二五號中派受北臨時貸

官房第三五五號

軍令	水路	陸建	教育	造兵	技本	法務	經理	機務	機關	軍務	官房	局部
											七月廿六	八月廿四

經理局 13.8.5

13.8.21

0701

第六件 有修
實録
其 認
許
ス

准

(372)

同

0702

事務

紙用箋符府守鎮賀須横

大正十三年八月一日

横須賀鎮守府副官

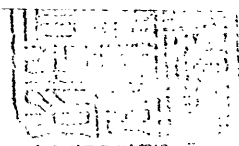
海軍省副官 殿

本件量表は提歩分ト御引換初度

0703

ニテモ

務部 見込 ア工事 閉塞シ セル山



平

0704



横領第一三四四號ノ二

大正十三年七月十四日

横須賀鎮守府司令長官 堀内三郎

海軍大臣 財部 彪殿

泥受船臨時貸與ノ件

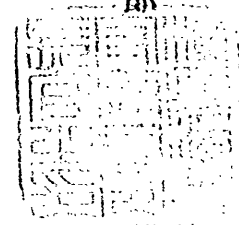
昨秋ノ震災ニヨリ浦賀船塲株式會社浦賀工場船渠頭部ニ隣接セル山林懸涯土岩千餘立坪崩潰ノ爲浦賀三崎間ノ交通路ニ縣道一ヲ閉塞シ之レカ開鑿工事ヨリ生スル土岩ハ專ラ海中放棄ヲ要スル趣ニテ工事擔當者浦賀船渠株式會社浦賀工場所長藤田益三ヨリ約三週間ヲ見込ミ土岩運搬用船一隻借用申出ニ對シ左記條件ヲ付シ當海軍港務部附屬公稱第二三二四號泥受船ヲ貸與致度候條御認許相成度
右上申ス

記

一、貸與期間中ト雖海軍ニ於テ必要ヲ生シタル場合ニハ何時ニテモ

官房第二五五又布

海軍



0704



之ヲ返還スルコト

二、貸與物件ニハ海軍ノ同意ヲ得スシテ一切加工セサルコト

三、貸與期間中該物件ヲ亡失又ハ毀損シタル場合ハ借受人藤壘田益三ニ於テ一切之カ辨償ノ責ニ任スルコト

四、積須賀軍港浦賀港間ノ該船回航ハ往復共浦賀船渠株式會社ノ手ニ於テ之ヲ行フコト

五、貸與物件ハ海軍ノ同意ナクシテ浦賀船渠株式會社以外ニ於テ之ヲ使用セシメサルコト

六、借受人ハ借受期間中一日金拾圓ノ割ヲ以テ使用料ヲ官ニ納付スルコト

終

0705

横領第一三四四番

大正十三年七月十二日

横須賀鎮守府司令長官 堀内三郎

海軍大臣 財部 彪殿

第一課

泥受船臨時貸與ノ件

昨秋ノ震災ニヨリ浦賀船渠株式會社浦賀工場船渠頭部ニ隣接セル山林懸涯土岩千餘立坪崩壞ノ爲浦賀三崎間ノ交通路（縣道）ヲ閉塞シ之レカ開鑿工事ヨリ生スル土岩ハ裏ヲ海中放棄ヲ要スル趣ニテ工事

第四部 擔當者浦賀船渠株式會社浦賀工場所長藤田益三ヨリ約三週間ヲ見込

第三課 總務部 第一隻借用申出ニ對シ左記條件ヲ付シ當海軍港務部附

第一課 屬公稱第二三二四號泥受船ヲ貸與致度候條御認許相成度

艦政本部

海軍

13.7.16

0706

紙箋附

大

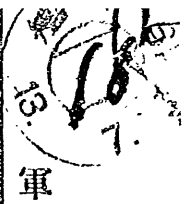
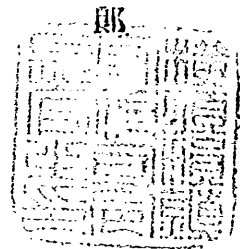
アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

http://www.jacar.go.jp/

度
海軍港務部附
三週間ヲ見込
ル趣ニテ工事
道一ヲ閉塞シ
ニ隣接セル山

13.7.16
瀬



軍

房受

本番
13.7.16
受接

紙箋附

0706 五

大正十五年七月十五日
海軍省軍務局
伏見町
輕政部印

0707

右上申ス

記

- 一、貸與期間中ト雖モ海軍ニ於テ必要ヲ生シタル場合ハ何時ニテモ之ヲ返還スルコト
- 二、貸與物件ニハ海軍ノ同意ヲ得スシテ一切加工セサルコト
- 三、貸與期間中該物件ヲ亡失又ハ毀損シタル場合ハ借受人藤田益三ニ於テ一切之カ辨償ノ責ニ任スルコト
- 四、横須賀軍港浦賀港間ノ該船回航ハ往復共浦賀船渠株式會社ノ手ニ於テ之ヲ行フコト
- 五、貸與物件ハ海軍ノ同意ナクシテ浦賀船渠株式會社以外ニ於テ之ヲ使用セシメサルコト

終

0708

艦政本部

佐鎮第 三 七 號 〇 〇 〇 〇 〇 〇

大正十三年八月二十一日

佐世保鎮守府司令長官 博 恭 王

海軍大臣 財 部 彪 殿

第一課 雜役船貸與ノ件

佐世保海軍港務部所屬左記雜役船大正十三年八月二十日ヨリ全年九月八日迄佐世保海軍無線電信所所屬内火艇破損ノ所修理中交通用トシテ必要ニ付全所へ貸與セシメ候

右報告ス

第四部 左

記

公稱第九三號

汽艇

一隻

總務部

第三課

第一課

13. 8. 27

(終)

13. 8. 20

海軍 本艦 13. 8. 27 受換

0709

起案罪紙

71

號番

三九九〇

大正十三年九月十五日

指令案

大正院

次官

(提察)

大正十三年九月一日起案

起案者 捺印

參事官

副官

軍需局長

軍務局長

經理局長

第四部長

吉川

第四部長

第三課長

第二課長

第一課長

本廳 13.9.6 受領

本廳 3.9.4- 第三課

本廳 13.9.4 2

本廳 23 91

九月十三日發付

發付掛 捺印

發付後起 案者捺印

13.9.14

軍令	水路	臨海	教育	造兵	技本	法務	經理	機務	艦政	人事	軍務	官房	局部
											9.9.10	九月一日	受月日
													發月日

經理局 13.9.10

13.9.8

13.9.4

0711

0710

起案 郵 紙

大正十二年九月 / 日起案

起案者 除印

九月十三日 發付 除印

發付掛 除印

發付後起 案者除印

起案 郵 紙

(提案)

大臣院

次官

副官

參事官

軍需局長

軍務局長

經理局長

第一課長

局員

吉川

第四部長

第二課長

第三課長

第一課長

和田

小宗

貝

本廳 13.9.6 受領

總本廳 3.9.4 - 第三課

13.9.4 受領

第四課 22 9

軍令	水路	陸軍	教育	造兵	技本	法務	經理	特務	機關	艦政	人事	軍務	官房	局部
												7.9	九月十日	受月日 發月日

經理局 13.9.10

13.9.8

13.9.4

指 令 案 大 臣

吳鎮長官宛

軍務局長 吳鎮長官宛

號 三九〇

軍

軍

0711

0710

八月十三日海軍省長官上奏の略
 航空中隊の増設に關する
 海軍省長官上奏の略
 航空中隊の増設に關する

海軍省長官上奏の略
 航空中隊の増設に關する

理由 軍外に航空中隊の増設を要するに於て、海軍省長官上奏の略に依りて

海軍省長官上奏の略に依りて

(略)

0713

0712

八月十三日海軍省海軍部第一課長官邸に於て海軍省同僚幹部訓練所開設
の増設に及んでの事ヲ認メ其ニ付外國航海中或ハ其ノ海軍部ノ力ヲ
ヲ講ムルニシ

大分県令ス

(10/13)

理由 軍外に於て航海中一時の必要に於て之ノ力ヲ

海軍省に依り

11

吳工第四號ノ一四三七ノ二

大正十三年八月八日

吳海軍工廠長 伍堂卓

海軍大臣 財政部 彪殿

十五

海軍大臣 財政部 彪殿

軟鋼線鋼増設ノ件

第四部 御認許相成度

本件ニ關シ淺間第六號ノ一二一ヲ以テ請求有之必要ト認メ候ニ付増設方

右 上 申 ス

工 第 算 課

第 一 課

一通及本艦請求書一通添フ

總務部

海軍工廠

海軍

四 8

本艦 13.8.16 受接

5-66

海軍工廠

9

13.8.16

13.8.16

「終」

0714



入費概算書

品名 周五吋柔軟鋼線鋼長サ五拾尋（特製「アイ付」ノモノニ條

入費概算 九百十七圓

備考 入費概算ハ工費、材料費、及附屬費ヲ含ム

「終」

海

071

0715

寫

淺間第六號ノ一二一

十三淺間修船第一號

大正十三年六月十日

軍艦淺間艦長

吳海軍工廠長 宛

機裝品定數變更請求書（運用長主管掌帆之部）

品名	數稱	規定數	現供用數	増スベキ數	所要數	摘	要
柔軟鋼線鋼(5吋)	條	常用	補用	常用	補用	五〇尋特製アイ付ノモノ	二
	理由					炭層、棧橋付必要ニ付	

從來練習艦隊行動中外國港灣ニ於テ岸壁又ハ棧橋ニ横付スル機會屢々ニシテ常備鋼索ヲ以テ繫止スルモ繫留場所ノ情況ニ依リ猶繫索ノ不足不安ヲ感スルコト多ク現ニ大正十一年度遠航ノ際本艦「サハベトロ」棧橋横付載炭中「ウネリ」ニ遭遇シ常備ノ鋼線鋼索ヲ大部分切斷セラレ一時危険状態ニ瀕シ錨地ヲ變更セシ實例モアリ大正十二年度遠航中モ屢々不足

海

軍

0716

ヲナシ重要ナル六吋曳船用鋼索ヲ二重三重ニ取付ケ艦ヲ保持セリ然ルニ
本年度モ斯ノ如ク屢々使用セバ不識不知曳索ヲ毀損シ實地曳航ニ際シ危
險ノ虞アリ常ニ后甲板ニ於テ六吋鋼索一房ヲ使用スルトキハ双繫柱ノ關
係上甚ダ不便ニシテ作業困難ナルノミナラズ「アツトホーム」等ニ際シ
后甲板甚ダ狹隘且ツ不整頓ナラシム故ニ本艦常備ノ六吋鋼線網ハ曳航ヲ
主トシテ保安上ノ豫備トナシ横付ノ際ハ常ニ五吋鋼索（半房）ニ條ヲ使
用セバ保安上ニモ作業上ニモ最モ適當ナルモノト認ム

右 申 請 ス

「終」

0717

供

軍務局長

第一課長

海軍局員

田

海軍

軍

模造牛島十三行野紙

大正十三年八月廿六日

大正十三年八月廿六日發布

子爵九鬼隆治宛

省刻官

廢極無修代下ニ出願

皇道宣揚會宣傳用トシテ廢極須磨ノ無修代々
下ニ出願相承言處詮議不相承言條了知

相承之度

右通知ス

新外

0718

廢艦無償御貸下願

一軍艦

須磨

但依世保軍港敷留中

右皇道宣揚會宣傳用として本年より向う各年間に
無償御貸下被成下段御許可上各方面に巡航皇道ノ宣傳
ノ事下し適テ海事思想ヲ喚起ナカレムコトニ努力侍度奉
存及之年何卒特別之以御詮議願意御採用被成下段
奉命一則ノ添附此段奉願及也

第一課
第二課

大正十三年八月五日

皇道宣揚會ヲ頭子受附大恩謹啓

海軍大臣財部尅殿

別紙開卷下付等々謹啓



軍務局受

13.8.11


0719

アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

http://www.jacar.go.jp/

分割撮影ターゲット

<p>分割した 部分の 撮影順序</p>	
<p>分割撮影 した理由</p>	<p>A 3 版 以 上 の た め</p>
<p>上記のとおり分割撮影した事を証明する。</p>	

詔勅

朕恭惟天神天祖立極垂統列皇相承繼之述之祭政一致億兆同心治教明...

明治三年正月三日 御名 御璽

命令

伏于惟ルニ 皇國ノ大道 天祖ノ詠訓ニシテ 皇統ニ系天壤ト窮リ無キハ則チ斯ノ道ノ存スル所以ナリ夫レ...

神道總裁 一品 織 仁 親 王

皇道宣揚會趣旨

國ノ興廢存亡ハ國民思想ノ健否ニ原由ス、然ルニ我皇國現代ノ精神界ハ搖蕩、不安支離、...

第二章 組織

第四條 本會ハ大日本東京ニ本廳ヲ各府縣北海道樺太臺灣朝鮮各植民地ニ支應支部ヲ...

第三章 職員

第七條 本會事務ヲ統理スル爲メ左ノ職員ヲ置ク 一、總裁 一名 一、副裁 一名...

第四章 職制

第十一條 本會ニ左ノ各局ヲ設ク 一、總務局 一、祭務局 一、事務局 一、經理局...

第五章 祭典及事業

第十三條 本會ハ三大節其他國家ノ祭祝日ニハ祭典ヲ執行ス 本會ハ每年春秋二期ニ大祭典及大會ヲ舉行ス...

第十六條

本會ハ毎日御神前ニ於テ天壤無窮國運ノ隆旺天下泰平國土安穩五穀豐饒會員...

第十七條

本會ノ事業計畫概目左ノ如シ 一、皇道宣揚講義講演會ヲ開催シ皇道ヲ體得セシメ皇民ノ天職ヲ示ス...

一、皇民ノ間ニ在スル人種的差別ノ撤廢ニ努メ世界人類ノ安寧ヲ期ス

一、皇國民各階級思想問題勞資問題婦人問題等國民道德ノ維持國民思想ノ善...

一、皇國民各階級生活ノ安固改善ニ努メ窮民ノ擁護民力ノ涵養社會教化ノ事...

業等之レカ施設整備ヲ圖リ調査機關ヲ設ケテ社會政策ノ實行ニ努ム

一、皇國民各階級生活ノ安固改善ニ努メ窮民ノ擁護民力ノ涵養社會教化ノ事...

業等之レカ施設整備ヲ圖リ調査機關ヲ設ケテ社會政策ノ實行ニ努ム

一、皇國民各階級生活ノ安固改善ニ努メ窮民ノ擁護民力ノ涵養社會教化ノ事...

業等之レカ施設整備ヲ圖リ調査機關ヲ設ケテ社會政策ノ實行ニ努ム

一、皇國民各階級生活ノ安固改善ニ努メ窮民ノ擁護民力ノ涵養社會教化ノ事...

業等之レカ施設整備ヲ圖リ調査機關ヲ設ケテ社會政策ノ實行ニ努ム

一、皇國民各階級生活ノ安固改善ニ努メ窮民ノ擁護民力ノ涵養社會教化ノ事...

業等之レカ施設整備ヲ圖リ調査機關ヲ設ケテ社會政策ノ實行ニ努ム

一、皇國民各階級生活ノ安固改善ニ努メ窮民ノ擁護民力ノ涵養社會教化ノ事...

業等之レカ施設整備ヲ圖リ調査機關ヲ設ケテ社會政策ノ實行ニ努ム

一、皇國民各階級生活ノ安固改善ニ努メ窮民ノ擁護民力ノ涵養社會教化ノ事...

業等之レカ施設整備ヲ圖リ調査機關ヲ設ケテ社會政策ノ實行ニ努ム

一、皇國民各階級生活ノ安固改善ニ努メ窮民ノ擁護民力ノ涵養社會教化ノ事...

業等之レカ施設整備ヲ圖リ調査機關ヲ設ケテ社會政策ノ實行ニ努ム

一、皇國民各階級生活ノ安固改善ニ努メ窮民ノ擁護民力ノ涵養社會教化ノ事...

業等之レカ施設整備ヲ圖リ調査機關ヲ設ケテ社會政策ノ實行ニ努ム

國ノ興廢存亡ハ國民思想ノ純否ニ係リ... 皇道宣揚會章程

皇道宣揚會章程 子 九 鬼 隆 治

皇道宣揚會會規

第一章 總則

- 第一條 本會ハ大日本皇國體ノ精華ヲ開明ニシ建國ノ本義ヲ遵奉シ祭政一致皇道化育神威神德惟神ノ大道ヲ宣揚シ躬行實踐ヲ期スル敬神尊皇ノ志士ノ團體ニシテ皇道宣揚會ト稱ス
第二條 本會ハ皇祖皇宗ノ御神勅御訓明治天皇ノ御風詔ノ大旨ヲ奉戴シ皇威國光ヲ發揚シ我國民ヲシテ世界ノ平和人類ノ幸福ヲ爲メニ努力奮闘セシムヘク之ニ必要ナル敬神尊皇崇祖ノ大精神ヲ振起スルヲ以テ本會ノ綱領トス
第三條 本會ハ伊勢大廟ヲ以テ國民ノ至聖殿トシ皇祖皇宗天神地祇ノ尊靈ヲ奉祀シ皇道ノ淵源ヲ究メ一切ノ信仰一切ノ宗教ヲ皇大神ニ歸一シ奉リ之レニ奉仕ノ直意義ヲ闡明シ皇國大國教ノ闡宣ヲナシ以テ國政ヲ補翼貢獻スルコトヲ期ス

第十六條 本會ハ毎日御神前ニ於テ天壤無疆皇道ノ隆ニ天下太平國土安寧五穀豐登國民諸氏ノ安全幸福ヲ祈願ス
本會ノ事業計畫概巨左ノ如シ
一、皇道殿ヲ樞要ノ地ニ建設シ皇國國民ノ大遊場タラシメントス
一、皇道宣揚講義講演會ヲ開催シ皇道ヲ獲得セシメ皇民ノ天職ヲ示ス
一、皇道學院皇道圖書館皇道病院ヲ建設シ皇民ヲ救養護持セシメントス
一、皇國史蹟ノ事蹟ヲ鑿刻建碑シ永遠ニ保存セントス
一、敬神尊皇忠孝烈士婦孺義烈傳ノ編纂及表彰ヲ致ス
一、皇民一般各階級並政府トノ諸關係並意思疏通機關タラシメントス
一、皇國精神ノ大道ヲ以テ皇別臣別ノ區別ヲ嚴正ニシ各自ノ分限ヲ嚴守セシム

第十七條 皇民ノ間ニ在スル人種ノ差別ノ撤廢ニ努メ世界人類ノ安寧ヲ期ス
一、皇國國民各階級思想問題勞務問題婦人問題等國民道德ノ維持國民思想ノ善導ニ努メ皇道化育ス
一、皇國國民各階級生活ノ安固改善ニ努メ窮民ノ擁護民力ノ涵養社會教化ノ事業等之レカ施設整備ヲ圖リ調査機關ヲ設ケ以テ社會政策ノ實行ニ努ム
一、皇國國民高等教育ノ一般普及立憲思想ノ充實涵養ニ努ム
一、無神論者過激派論者等總テ皇道違反者ヲ反正顯示シ且ツ白表ヲ作成シ白表簿冊ニ登錄シ之レヲ上告ス

第十八條 敬神尊皇ノ志士國學者ノ後援獎勵ニ努ム
一、第二皇國民ノ健全民力ノ隆昌ヲ圖ル爲メ不逞不良ノ青年兒童ノ保護並ニ感化施設ノ整備ヲ圖リ之カ示道ヲナシ以テ保護皇化ノ實ヲ舉グルニ努ム
一、皇國義勇隊ノ編制及士風ノ涵養振起ニ努ム
一、皇國海陸軍ト相提携シテ國家有事ノ日ニ備ヘントス

第十九條 社會風教ニ有益ナル圖書ヲ出版シ機關誌「大日本」ヲ發刊ス
本會各事業ノ成績其他ノ狀況ハ機關誌ニ公表スルモノトス

第二十條 本會ハ左ノ收納ヲ以テ之ヲ經營ス
一、會員ノ會費維持費金
二、篤志家ノ獻納寄附補助金
三、基本財産ヨリ生ズル收納金

第二十一條 本會ニ建造木石物品ヲ獻納寄附セントスルモノアルトキハ審査ノ上之ヲ受領ス

第二十二條 本會經理庶務ニ關スル規程ハ別ニ之ヲ定ム

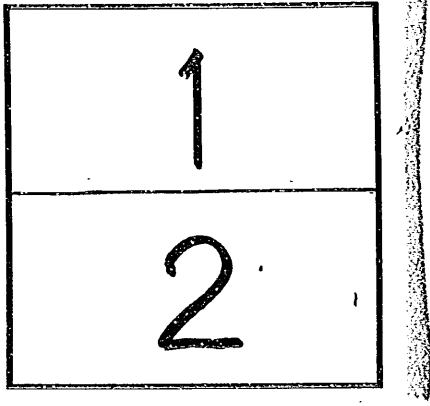
第二十三條 本會ハ皇道ノ大旨ヲ奉戴スル者ハ皇道ノ六義ニ即チ宗教信仰ノ如何ヲ論セス會員タルコトヲ得ルモノトス

第二十四條 本會員ハ左記皇道ノ大憲ヲ遵奉シ會律ヲ遵守シ皇道化育以テ國政ヲ補翼シ本會大精神ノ貫徹ヲ期スヘキモノトス

第六章 經理及維持

第七章 會員

分割撮影ターゲット

<p>分割した 部分の 撮影順序</p>	
<p>分割撮影 した理由</p>	<p>A 3 版 以 上 の た め</p>
<p>上記のとおり分割撮影した事を証明する。</p>	

皇道ハ神道ナリ
皇道ハ公道ナリ

第二十五條 本會ニハ皇道長老會皇道婦人會皇道少年少女會ヲ附屬トシテ設置ス
本會員ノ種類ヲ左ノ如ク定ム

一、名譽協賛員ハ本會ノ後援者ニシテ天下ノ名望人格者ヲ推挙ス

一、協賛員ハ本會ノ後援者ニシテ學識名望高キ人格者ヲ推挙ス

一、名譽會員ハ敬神尊皇ノ志ニ篤ク特ニ功勞顯著ナリト認メタル學識若クハ
徳望家又ハ金五千圓以上ヲ出金セララルル者ヲ以テ推挙ス

一、特別會員ハ敬神尊皇ニシテ功勞顯著ナリト認メタル篤志家又ハ金壹千
圓以上ヲ出金セララルル者ヲ以テ推挙ス

一、贊助會員ハ敬神尊皇ニシテ本會ノ主旨綱領ヲ翼賛スル人格者又ハ金壹
百圓以上ヲ出金セララルル者ヲ以テ推挙ス

一、正會員ハ敬神尊皇ニシテ本會ノ主義ヲ普及貫徹スル目的ヲ以テ加
盟セララルルモノニシテ行跡人格等ヲ査定シ適當ト認メタル勳皇ノ志士
又ハ金拾圓以上ヲ出金セララルル者ヲ以テ推挙ス

一、普通會員ハ敬神尊皇ニシテ祖國ノ爲メ熱烈ナル愛國心ヲ以テ贊同加盟
セララルル志士又ハ金參圓以上ヲ出金セララルル者ヲ以テ推挙ス

一、奉賛會員ハ敬神尊皇ニシテ皇民ノ天職ヲ全フセムトシテ目的ヲ以テ加
盟セララルル志士ヲ以テ推挙ス

第二十七條 入會ノ拒絕及會員ノ除名ハ理事會ニ於テ議決シ其理由ハ之ヲ告知セズ

第八章 會 議

第二十八條 本會會議ハ會頭之ヲ招集ス

一、通常總會 (本廳支廳支部員全體)

一、總會 (本廳員全體)

一、理事會議 (理事)

一、顧問會議 (相談役顧問)

第二十九條 總會ノ議長ハ會頭又ハ副會頭ニシテ當ルモノトス

第三十條 本會總會通常會議ニ關スル規程ハ別ニ之ヲ定ム

第九章 名譽冠並有功章頸飾

第三十一條 本會名譽冠並有功章頸飾ハ皇道ノ偉勳者或ハ本會ノ事業又ハ會費ヲ補助シ
特別ノ功勞アリタル者ニ之ヲ贈與ス

第三十二條 本會名譽冠並有功章頸飾ヲ贈與セントスルモノアル時ハ其ノ功勞ヲ録シ會
頭ニ具申シ總裁ノ裁可ヲ經テ之ヲ贈與ス

第三十三條 本會名譽冠並有功章頸飾ヲ贈與セララルル者ハ本會名譽冠冊及有功章頸
飾冊ニ登錄ス

第三十四條 本會第一種名譽冠並第二種有功章頸飾ハ名譽會員ニ第二種名譽冠並第二
種有功章頸飾ハ特別會員ニ贈與ス

第三十五條 本會名譽冠並有功章頸飾式ハ別ニ之ヲ定ム

第十章 名譽牌並感狀及賞褒狀

第十一章 會員章並會員登記及服制

第四十三條 本會會員章並會員登記並名譽、特別、贊助、正、奉贊會員ノ資格ヲ有スル
各人名ヲ録シ會頭ニ具申シ正規ノ手續ヲ經テ之ヲ附與ス

第四十四條 本會會員章並會員登記並會員章ヲ附與セララルル者アルトキハ各其資格ニ應ジ會
員名簿ニ登錄ス

第四十五條 本會會員章並服制式ハ別ニ之ヲ定ム

第四十六條 本會ノ事業ヲ完成シ基礎確定ヲ待テテ社團法人ニ組織スルヲ以テ目的トス

皇道宣揚會會員待遇規程

第一條 本會名譽、特別、贊助、正、普通會員ハ左ニ定ムル規定ニ準ジテ待遇推護ス

一、本會員ハ在所氏名ヲ高義功勞列傳又ハ各會員資格ニ應ジ會員名簿ニ登錄シ神
前ニ奏上ノ上寶庫ニ藏納ナスノミナラズ大祭典及大會ニ參列シ且本會事業ニ
參與スル特典ヲ附與ス

一、境域内ニ建ツベキ皇道紀念碑ニ氏名ヲ刻シテ不朽ニ傳フ

一、高義功勞ニ相當スル所定品ヲ贈與ス

一、奉贊會員ハ前條ニ準ズルモ別ニ所定品ヲ贈與セズ特ニ會員證票ヲ授與ス

皇道宣揚會所定贈與品規程

第一條 本會所定贈與品規程左ノ通りニ之ヲ定ム

第二條 本會名譽、特別、贊助、正、普通、奉贊會員ハ各其資格ニ應ジ規定ニ依リ左記會
員章及登記並所定品ヲ贈與ス

名譽會員 (出金者)

一、皇道三組大盃

一、明治天皇 皇道勳勳 御紋章附

一、皇太神 九鬼會頭眞筆謹誌 (第一種)

一、名譽冠並名譽冠之記 (第一種)

一、有功章頸飾並有功章頸飾之記 (第一種)

一、會員章並會員證記

一、皇道大盃

一、明治天皇 皇道勳勳 御紋章附

一、皇太神 九鬼會頭眞筆謹誌 (第二種)

一、名譽冠並名譽冠之記 (第二種)

一、有功章頸飾並有功章頸飾之記 (第二種)

一、會員章並會員證記

一、皇道大盃

一、明治天皇 皇道勳勳 御紋章附

一、皇太神 九鬼會頭眞筆謹誌 (第三種)

一、名譽冠並名譽冠之記 (第三種)

一、有功章頸飾並有功章頸飾之記 (第三種)

一、會員章並會員證記

一、皇道大盃

特別會員 (出金者)

一、皇道大盃

一、明治天皇 皇道勳勳 御紋章附

一、皇太神 九鬼會頭眞筆謹誌 (第一種)

一、名譽冠並名譽冠之記 (第一種)

一、有功章頸飾並有功章頸飾之記 (第一種)

一、會員章並會員證記

一、皇道大盃

一、明治天皇 皇道勳勳 御紋章附

贊助會員 (出金者)

一、皇道大盃

一、明治天皇 皇道勳勳 御紋章附

一、皇太神 九鬼會頭眞筆謹誌 (第二種)

一、名譽冠並名譽冠之記 (第二種)

一、有功章頸飾並有功章頸飾之記 (第二種)

一、會員章並會員證記

一、皇道大盃

一、明治天皇 皇道勳勳 御紋章附

正會員 (出金者)

一、皇道大盃

一、明治天皇 皇道勳勳 御紋章附

一、皇太神 九鬼會頭眞筆謹誌 (第三種)

一、名譽冠並名譽冠之記 (第三種)

一、有功章頸飾並有功章頸飾之記 (第三種)

一、會員章並會員證記

一、皇道大盃

一、明治天皇 皇道勳勳 御紋章附

第九章 名譽牌及賞状

- 第三十一條 本會名譽冠並ニ有功章頭飾ヲ贈與スルハハ本會ノ勲章及ヘテ表シテ其ノ功績ノ特別ノ功勞アリタル者ニ之ヲ贈與ス
- 第三十二條 本會名譽冠並ニ有功章頭飾ヲ贈與スルニハ本會ノ勲章及ヘテ表シテ其ノ功勞ヲ録シテ頭ニ具シテ總務ノ認可ヲ得テ之ヲ贈與ス
- 第三十三條 本會名譽冠並ニ有功章頭飾ヲ贈與スルハ本會名譽冠並ニ有功章頭飾及有功章頭飾ニ具シテ總務ノ認可ヲ得テ之ヲ贈與ス
- 第三十四條 本會第一種名譽冠並ニ第一種有功章頭飾ハ名譽會員ニ第二種名譽冠並ニ第二種有功章頭飾ハ特別會員ニ贈與ス
- 第三十五條 本會名譽冠並ニ有功章頭飾ハ別ニ之ヲ定ム
- 第十章 名譽牌及賞状
- 第三十六條 本會ハ敬神尊皇忠臣孝子烈婦ニシテ德ヲ皇道ノ大精神ヲ涵養スルニ足ルベキ行為アル者又ハ皇道宣揚會後援事業ニ努力盡瘁シ其ノ功績顯著ナル者ニシテ本會ノ編纂烈傳ニ收録セララルヘキモノニ名譽牌及賞状又ハ褒状ヲ授與シテ之ヲ表彰ス
- 第三十七條 前條ニ規程セル敬神ト尊皇烈婦者トシテ表彰スヘキ者ノ資格ハ地方長官ノ推薦又ハ正確ナル資料ニ基キ慎重ナル登考ヲ加ヘ會頭ヨリ總裁ニ具申シ裁可ヲ經テ之ヲ定ム
- 第三十八條 本會名譽牌及賞状褒状制式ハ別ニ之ヲ定ム
- 第三十九條 本會ハ本會ノ舉テ後援贊助セラル高義功勞者ニ名譽牌及賞状又ハ褒状ヲ贈與ス
- 第四十條 本會名譽牌及賞状又ハ褒状ヲ贈與セントスルモノアル時ハ其高義功勞ヲ録シ會頭ニ具申シ裁可ヲ經テ之ヲ贈與ス
- 第四十一條 本會名譽牌及賞状又ハ褒状ヲ贈與セラレタル者ハ本會編纂ノ高義功勞烈傳ニ登錄ス
- 第四十二條 本會名譽牌及賞状制式ハ別ニ之ヲ定ム

特別會員 (出金者)	皇大勳 九鬼會頭及皇親 (第一種)	皇大勳 九鬼會頭及皇親 (第二種)	皇大勳 九鬼會頭及皇親 (第三種)
贊助會員 (出金者)	皇大勳 皇道勳 皇道勳 (第一種)	皇大勳 皇道勳 皇道勳 (第二種)	皇大勳 皇道勳 皇道勳 (第三種)
正會員 (出金者)	皇大勳 皇道勳 皇道勳	皇大勳 皇道勳 皇道勳	皇大勳 皇道勳 皇道勳
普通會員 (出金者)	皇大勳 皇道勳 皇道勳	皇大勳 皇道勳 皇道勳	皇大勳 皇道勳 皇道勳
奉養會員	皇大勳 皇道勳 皇道勳	皇大勳 皇道勳 皇道勳	皇大勳 皇道勳 皇道勳

皇道宣揚會會員心得

皇道宣揚會假本廳

振替口座大阪六五四八二番
電話 中三六七八番

明治 天皇 詔 勅

有栖川宮一品熾仁親王令旨

皇道宣揚會趣旨書並規程

皇道宣揚會名譽冠並有功章頭飾規程

皇道宣揚會會員贈與品待遇規程並心得

本會會頭神祇伯大中臣熊野別當子爵九鬼家略系統

九鬼家ノ高祖天津兒屋根命ハ神命ヲ奉戴シ天孫彦火瓊杵尊ヲ輔翼シ奉リ宰相トシテ勅ヲ奉ジ天津神ノ司命ヲ代表セシメラレ
神事ノ宗源ヲ主宰シ政務天業ヲ輔佐シ大勳ヲ奏セラル 御孫天種子命ハ神武天皇辛酉元年正月 天皇御即位ノ御時祭司官ヲ掌リ
大功アリ同四年甲申二月詔シテ神祭ヲ以テ政治トシ神勅ヲ以テ國是トシ祭政一致以テ國ヲ治メラル 七世廣積命ハ崇神天皇ノ朝
祭祀ノ官ヲ掌ラル同六年祭主トシテ天照皇太神ノ神靈ヲ和州笠縫邑ニ奉祀同十六年熊野本宮ヲ奉建伊弉諾伊弉冊尊ヲ奉齋セラル
八世大鹿島命ヲ以テ垂仁天皇二十六年十月 天照皇太神ノ祭主トナシ給フ以後太夫ノ官ヲ賜ハリ熊野ニ祭官トナル後二世鳥
賊津連ハ仲哀天皇ノ御宇太夫ノ官ヲ賜ハル同九年二月 神功皇后三韓征伐ノ御時勅命ヲ以テ連ヲシテ百寮ヲ領シ宮中ヲ護ラシム
同三月皇后御親ヲ齋宮ニ入ラセラレ神主トナリ太夫鳥賊津連ヲ審神トナシ祈ヲ爲サシメ天神地祇ニ請ヒ三韓ヲ御親征アラセラル
後三世常盤大連ハ 欽明天皇ノ御宇朝命ヲ奉ジ神法ヲ修シ天下ノ罪人ヲ僉議セシメラレ罪人無キニ至ル其功ヲ以テ神祇伯ニ任
セラレ中臣姓ヲ賜ハル 二十二世大職冠内大臣正一位藤原鎌足公ハ 天智天皇ヲ輔佐シ 皇室ノ御基ヲ固メ奉リ諸制度ヲ改革シ
給ヒ大寶律令ノ基ヲ作ラレ中興ノ大業ヲ成シ給フ畏クモ 天皇臨幸其偉勳ヲ思召サレ藤原姓ヲ賜ヒ大職冠ヲ授ケラル 其ノ男ヲ
正一位藤原淡海公(天智天皇皇子)トス文武天皇大寶元年勅命ニヨリ大寶令ヲ奉ル其ノ男神道灌頂神祇官領長上大中臣武智麻呂公
ヨリ弘安二年二月宮中齋所ニ於テ嵯峨天皇弘法大師ト俱ニ神道三種靈法ヲ受ケ給フ(大師曰ク神道ノ傳ヲ受ケタルモノハ佛法ノ
奧儀ヲ悟ルコトナシ) 贈太政大臣參議中衛大將房前公六世嫡孫攝政太政大臣良房公關白太政大臣基經公關白太政大臣贈正一位
忠平公左大臣從一位帥尹公嫡孫右中將陸奥守正四位實方公七世ノ裔ヲ熊野別當石邊太夫教真公トス公ハ白河院ノ御宇熊野權現ノ
別當職ヲ賜ハル 其ノ男熊野別當湛増法眼ハ神勅ヲ奉シ逆臣清盛ヲ神傳調伏法ヲ以テ天誅ヲ蒙ラシム 後鳥羽天皇ニ院宣ヲ請ヒ
奉リテ使(文覺上人)ヲ左兵衛佐頼朝公ニ致シ平家追討ノ軍ヲ起サシム 其ノ八世別當道實法橋ハ龜山天皇ノ御宇勅命ヲ蒙リ弘安
ノ役ニ當リ神方ヲ以テ元冠調伏身ヲ以テ國難ヲ救フ 白河法皇以來歷代上皇ノ御崇仰一方ナラズ 龜山天皇ニ至ルマテ行幸百數
度ノ多キニ及ハセラル朝廷ヨリ奉使使ヲ立ララレ天下國家ノ安穩ヲ祈ル例トス 後二世ヲ九鬼隆真藥師九藏人ト號ス 後醍醐
天皇ノ御宇尊氏兄弟ノ大逆ヲ憤リ延元元年十二月繪圖ヲ奉シ神咒ヲ修シ 天皇ヲ花山院故宮ヨリ窮ニ負ヒ奉リテ吉野藏王堂ニ奉
シ假ニ皇居ト爲シ始メテ之ヲ南朝ト申奉ル 翌延元二年三月勅命ニ依リ叙山ニ登リ潛ニ 三種神器ヲ奉戴シ同年十二月吉野ノ行
宮ニ參着無事神器ヲ捧ケ奉ル天皇其ノ大功ヲ嘉サレ九鬼姓ヲ賜ハル後南朝ヲ樹立奉戴セル故ヲ以テ尊氏ノ忌避スル所トナリ武將
トナル 後八世天隅守九鬼嘉隆公志摩國ヲ領シ神託ヲ受ケテ島羽城ヲ築城本居トス文祿年中征韓役水師總督アリ神託アリ賀多社
境内ノ龍燈松ヲ以テ旗艦日本丸ヲ造艦ス是レ本邦造艦ノ始メニシテ公ヲ以テ日本海軍ノ鼻祖タリトス 公ノ水戰ニハ恒ニ神傳相
傳ノ法ヲ修シ神方ヲ以テ敵艦ヲ激撃大勝ヲ致シ凱歌我國威ヲ海外ニ轟カサル(嘉隆公肖像國寶ニ撰定)其ノ男守隆公東軍ニ與シテ
大功アリ南伊勢五郡ヲ賜ル其ノ男式部少輔隆季公ハ寛永十年丹波國綾部ノ領主タリ隆季公十世ノ嫡孫從五位下大隅守式部少輔隆
都公嘉永六年六月合衆國使節來朝海岸防禦ノ命ヲ奉ヌ又講武所總裁ヲ拜命ス其ノ男正四位式部少輔大隅守隆備公文久三年三月丹
波口警衛拜命元治元年二月龍顏ヲ拜シ天益ヲ賜フ尙禁衛衛ヲ台命明治十七年特ニ子爵ヲ授ケラル公ノ嫡子ヲ本會會頭九鬼隆治子
爵トス 明治三十年襲爵同三十九年六月 明治天皇天顏拜謁從五位宣下天益ヲ賜ハル大正五年五月從四位叙位畏クモ 明治天皇
今上天皇兩陛下九鬼家菩提所當安寺ニ兩度ノ行幸行在所タル榮光ヲ給ハル
天津兒屋根命ヨリ天津神ノ司命ヲ系繼シ當主ニ至ル三千年七十三世爾來歷世連綿相承ケ神祇伯大中臣熊野別當天津神家ノ正統ト
シテ今日ニ至ル

皇道宣揚會總務局

九鬼家ニ於テハ 天照皇太神建速素盞鳴尊ノ勅ニヨリ神代ヨリ神事行事トシテ皇室ヲ冥護シ奉リ皇民幽助ノ神祭ヲ司掌シ九鬼神
道三種靈法九鬼宗門卷(神傳鬼門鎮護神札厄祓)神事ヲ歷世相承之ヲ繼ギ古來家例重要行事トシテ施行セラル皇國鎮護ノ靈社トシ
テ崇敬奉齋スル公認九鬼靈神社(正一位總領大權現宮)ニ於テ鬼門鎮護神札授與セラル
畏クモ上 皇室朝廷ニ於カセラレテモ往古ヨリ御歷世鬼門鎮護ノ御式法アラセラル所タリ

皇道宣揚會名譽協賛員顧問芳名錄

(順序不同各員直筆原籍ニ在リ)

Table listing names and titles of honorary members and advisors, including various court titles like '前小松宮殿下 貴族院議員' and '前内閣總理大臣'.

追加
内務大臣若槻禮次郎
文部大臣下村書一
宗教局長下村書一

皇道宣揚會

Table listing the names and titles of the board members of the Emperor's Way Propaganda Association, including '會頭 山田知秀' and '副會頭 富田二郎'.

供覽

九鬼子件 (野田大村来知)

海軍

軍務局長

第一課長

局員

局長

大正十三年八月九日

軍務局長

九鬼隆治宛

發付



扨後廢艇須磨の無償貸下に當り申上り趣の
 趣了承仕り云同艇は相由修理を施すに非ざれば
 航行不能なる状態に有之梅軍一に於ては該艇の
 関係上之を修理する意思無之候に公署に付せ
 らるる是に有之云々此中貸下流に有修理費の
 及撤去に要する一切の経費を負担せらるるに於て
 奉命可致す高出願の書式ハ特定のもの無之ある
 へん詳細あり計画を具し出願相致す及回答す

教長

相成 承知 標印

0726

轉啓

火之目録之候念切健勝被奏居候段奉印家
御書不斜奉賀片

陳名甚が唐如ハハ我御向に申上候恐縮に云々

中堅及得共廢艦トシテ左世保軍港ニ船案由相成

居候須麻不艦ヲ白王遣宣揚會官傳用トシテ無

備御算下ラ出願仕度片トテ該願書式及手続

等何共恐入候得共指示被成下度此殿特御願

申上候高下指示に都合に於テ自今更成上

京可致恩料 日能社員

右差込に願要候申上度如斯に望候致願

大正拾參年八月貳日

子爵九鬼隆治

海軍省軍務局長殿



皇道宣揚會

0727

吳鎮第五〇號九三一二

大正十三年九月十五日

吳鎮守府司令長官 竹下

海軍大臣財部彪殿

第一課 雜役船一時限貸與件

吳海軍港務部附屬左記雜役船ヲ來九月十五日ヨリ

十二月二十八日迄吳海軍工廠第二船渠頭部延長工事

土砂運搬ノ爲吳海軍建築部一時限貸與使用セ

シ人候 第四部

右報告

總務部第三課

一、公箱 雜務部第一課 八號泥受船

總務部 13.9.22

本艦 13.9.19 受接

官房受

雜務部

0728

海軍

艦政本部

軍務局

佐鎮第三七號ノ九三

大正十三年九月十六日

佐世保鎮守府司令長官 博 恭

海軍大臣 財 部 彪 殿

雑役船貸與ノ件

佐世保海軍港務部保管左記雑役船ヲ大正十三年九月十六日ヨリ大演習
終了後當港歸港時迄特務艦佐多へ貸與使用セシムヘク候
(理由)

特務艦佐多本年大演習中特設航空母艦トシテ就役スルニ就テハ航空
隊員約八十名ヲ乗艦セシムル豫定ナルヲ以テ現有短艇ニテハ乗員ノ
乗用ニ不足ヲ告クルノミナラス現有内火艇ハ船体小ニシテ耐波性ニ
シテ且故障ヲ生シ易キヲ以テ左記ノ雑役船ヲ借用シ場合ニ依リテ
ハ飛行機曳航用トシテ使用シ度キニ付

第四部

總務部第三課
總務部第一課

艦本總
18.9.26
第三課

艦
24

海軍

官房

0729

右報告ス

左記

内火艇（勞山還納ノ分）

一隻

（終）

海軍

0730

軍務部

政本部

横須賀鎮守府
第一課
ノ
二

大正十三年十月一日

横須賀鎮守府司令長官 堀内三郎

海軍大臣 財部 彪 殿

第一課

汽艇一時限貸借使用ノ件

左記之通難役船ヲ一時限貸借使用方認許致候

右報告ス

第四部 記
所屬 船種

使用 理由

横須賀海軍港務部附屬
公稱第四二一號

軍艦鳴戸 汽動艇艤裝中ニ付

總務部第三課

總務部第一課

檢本總
13.10.6
第三課

海

軍務
13.10.3

十月三日
官房

0731